

# 英語科における深い思考とは～培いたい資質・能力との関連を問う～

福井県立若狭高等学校 教諭 大橋夕紀

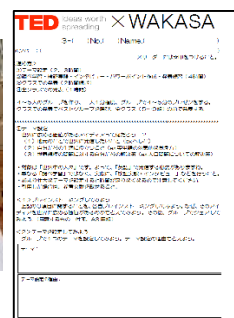
## 1. はじめに

若狭高校に赴任した昨年度より、研究テーマである「一人ひとりが深く学ぶための授業づくり」を英語という教科でどのように取り扱っていきかを考えている。2年後には大学入試改革が現実のものとなり、ますます英語をツールとして扱う要素が強くなっていると感じる。そんな中で、英語の授業を通して生徒に伝えていくべきこと、また身につけて欲しいことは何かを英語科全体としても考えながら日々の授業に取り組んでいる。そこで、これまでの取り組みをまとめ、来年度以降の課題を明らかにしたい。

## 2. これまでの具体的な取り組みと考察

### 取り組み①【ワンランク上のプレゼンテーション力の育成】

- ・ FUKUI TOUR PROJECT
- ・ レシテーション
- ・ スキットコンテスト
- ・ 動画作成



英語で自分のことを伝えたいときに、伝えられる力の育成を目的とした。多様なプレゼンテーションの形態を提供する、伝えたいと思う教材の選択→レシテーションコンテスト、FUKUI TOUR PROJECT (ツアーコンダクターとして、ALT に福井の旅を提案)、やってみたいと思う企画→動画作成 (映画のおもしろワンシーンを自分たちで工夫して作成する) など伝えたいという意欲に繋がる工夫をした。結果、生徒たちにとって、行う意味のある課題を設定することが出来たと考える。

### 取り組み②【自分の意見を伝える力・手法】

- ・ 英語ディベート
- ・ オーラルテスト (ディベート編)



今年度、アカデミックディベートは授業では扱わず、2年生3学期の授業でパラメンタリーディベート方式を採用した。昨年度、学年全体で取り組む中で、生徒が意見を伝えあうには、授業内で扱う方法としてパラメンタリー方式のほうが全員で参加できると考えたからだ。あまり形式にとらわれず、自分の伝えたいこと、相手の意見に対して理由を持って反論することを目的とした取り組みであった。トピックもクラスごとに自分たちで決め、1時間に2試合 (10分)、3学期週1時間×5回で行ったが生徒た

ちの評判は上々であった。

また、有志で行う英語ディベート活動では、今年度は「日本は、移民政策を大幅に緩和すべきである。是か非か。」という論題を扱った。生徒たちが主体的に動き活動の幅を広げることが出来た。

### 取り組み③【外部試験の積極的な活用と受験】

・英検プロジェクト

平成27年度⇒平成28年度の変化

1 準1級受験者		
	H27	H28
合格者	0	3 ↑
受験者	6	11 ↑
2 2級受験者		
	H27	H28
合格者	71	44 ↓
受験者	160	153 ↓
* 文理探究科1年、普通科2年は受験者・合格者とも増加		
3 準2級		
	H27	H28
合格者	70	77 ↑
受験者	120	124 ↑
4 3級		
	H27	H28
合格者	11	38 ↑
受験者	17	84 ↑

準1級の受験者・合格者が増えた！

3級の受験者・合格者が増えた！

今年度の受験結果はまだ出ていない

が、受験意欲は高まっていると捉えられる。

自分たちの力を試そうという前向きな生徒が

増えている。2級の合格者が少ないのは1年生

で受験したものの、まだ2級の力がついていなかった生徒が多いと考えられる。意欲は伸ばせている。合格者が増えるように取り組みを継続していきたい。

**2016 Eiken Project**  
 今年度は英語で英語力を上げよう！！  
 ・英検を用いて学習を進めよう！！  
 ・勉強したことが合格者の形で結果として残れる！  
 ・自分で得た知識が将来の進路で役に立つ！

【受験予定日】12月26日(月) 2級・準2級  
 2016年有2級受験者40名(予定) ※本校にも合格者がたくさんいます！！

※試験料(税込)は別掲  
 1次試験 12月22日(日)  
 2次試験 2月19日(日)

◆試験料 2級 5,400円 準2級 4,100円  
 3級 2,800円

### 取り組み④【教科の枠を超えた英語活動】

- ・OECDプログラムによる海外派遣
- ・海外校とのSkypeでのディスカッション
- ・社会研究の内容を海外で発表



学校外に出たり、海外の方とかかわったりしながら実社会での英語で伝えあう経験は何より大切だと感じた。今年度は、国際探究科の社会研究で他教科との繋がりができた点も大変良かった。シンガポールでの語学研修で自分たちの研究内容を英語で発表することが出来たことは大きな成果だった。

#### 4. 成果と課題

これらの取り組みを行う中で、生徒に付けさせたい思考力・判断力・表現力を具体的に表すと次のような力になる。

- ・情報を多面的・多角的に精査し構造化する力
- ・言葉によって感じたり創造したりする力
- ・感情や想像を言葉にする力
- ・言葉を通じて伝え合う力
- ・構成・表現形式を評価する力
- ・考え方を形成し深める力

これまでの実践には、一つ一つに上記のような力の育成を意識した活動を取り入れていた。しかし、これら进行评估し、生徒にどれだけ力がついたのかを示せる基準が未だに若狭高校英語科として示せていない。1年単位、3年単位での到達目標を英語科として共有し、そのために必要な指導内容、計画はどんなものなのかを共通理解し、実行することが次の課題である。